



えと文
池田陸男

イスと水玉、そして花

ゴミ回収日にもらって帰ったイス、まだ使えそうである。スプリングを固定し、使い古したキャンバス布地で覆う。カーテンにするはずであった布地を上からかぶせたら、なんと私の脚の長さにぴったり、さらにゆったりとした巾のある背もたれで丁度良い角度がすっかり体になじみ、今まで買った、どんなイスよりも心がおちつく。あまり家族のものに利用させたくないの一心で使用しない時は本やレコードを置いておく。いろいろなもの置く中で最もきれいでおもしろいのは水玉だと思ふ。半透明のガラスの球体（北海道旅行のみやげもの、娘にやったのであるがおもしろく、きれいなのでとりかえした）はまわりの色を素直に吸収していつも美しい色調をみせてくれる。南西から陽の入る小さなアトリエがいつの間にか花の置き場所になってしまった。雨に弱い花は緊急こえ避難するようである。しかし中には居座っているものもある。今のところ大変きれいな色を楽しませてくれているので我慢しているが、しかし梅雨の終りには全部出ていってもらうつもりである。さきほどから小雨、あじさいは白、青、むらさきとそれぞれ、きれいにさえて、かたつむりが二匹、つのをのばし右に左にゆっくりに動かしている。

（中学校教諭）